

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	こども家族みらい応援団 オバフロ（放課後等デイサービス）				公表日	年 月 日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5	0	指導訓練室等の広さは十分であり、活動ごとに机のレイアウト等を変更し、活動しやすいように工夫している。	個室がないため、必要に応じたパーティション等間仕切りの設置検討。	
	2 利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5	0	職員の配置数は適切で、更に経験豊富な職員をプラスで配置しており、職員同士連携している。	基準よりも多く職員を配置しているものの、それでも急な欠勤等あった際は体制が弱くなってしまうことから、職員の新規採用も検討。	
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4	1	・子どもにわかりやすい構造。 ・ドアは全て引き戸で、床に段差はなく、バリアフリー。	・収納が少なく、子どもが触れる場所に物を置いていたりすることから、収納棚を設置する等検討。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	5	0	多機能型事業所であるが、それぞれ利用の都度、掃除・消毒等を徹底している。	・活動時、4~5人が一緒に活動出来る長机の設置検討。 ・パーティションや室内用テント等設置による落ち着ける場所の確保。	
	5 必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	4	1	専門的支援実施の際は、相談室（個室）を使用する等工夫している。	パーティションや室内用テント等設置による落ち着ける場所の確保。	
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。			人事評価の中で半年に1回目標を設定し、それに対する自己申告の上、目標を達成出来たか否か等振り返りを行いPDCAサイクルにつなげている。	個々の目標だけでなく、職員全員の目標が定まることで、よりPDCAサイクルにもつながると考えられることから、職員全員の目標設定も検討。	
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	2	3	今回が初めての保護者からの評価であるが、保護者からの評価を真摯に受け止め、職員間で情報を共有し、改善を図った。	保護者からの評価を真摯に受け止め、業務改善につなげる。	
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4	1	毎週木曜日の午後を意見交換等の時間として設け、支援に対する認識の共有等業務改善につなげている。	その日あったこと、気付いたこと等々、その日のうちに話す時間があまりないため、書式等定めて記録の上、後日話し合いを実施、業務改善につなげる。	
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	1	4	第三者からの指導・助言を受け、業務改善につなげている。	外部評価は行われていないが、今後機会があれば外部評価をしていただき、業務改善につなげたい。	
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	3	2	管理者がセミナーや研修等を受講、それを職員に伝達し、職員の資質の向上に努めている。	全職員に外部研修等を受講する機会を設け、職員一人一人の資質の向上に努める。	
適切な支援の提供	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	4	1		新規開所で、まだ支援プログラムを公表していないことから、早急に公表する。	
	12 個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	5	0	見学・体験時や利用契約時、じっくり時間をかけてアセスメントを実施、同アセスメントをもとに個別支援計画を作成している。	保護者から聞き取った子どもの保護者のニーズや課題だけでなく、見学・体験時等子どもと直接関わった全職員で気付いたことを出し合い、支援計画を練り上げていく。	
	13 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5	0	・職員会議を実施、意見や気付きを出し合い、話し合いをしている。 ・会議に参加出来ない非常勤職員にも共有している。	上記に同じ。	
	14 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	3	2	全職員が個別支援計画を確認している。	・職員間で共有され、計画に沿った支援を行ってはいるものの、子どものことを思うが故、支援に対してはそれぞれの職員の思いがあるので、全職員が同じ方向を向けるよう足並みをそろえていきたい。	
	15 子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4	1	年齢に応じたアセスメント整理シートやスキル確認シートを使用し、子どもの適応行動の状況を確認している。	職員一人ひとりが子どもの適応行動の状況を把握、全職員が適切な支援を行えるようにする。	
	16 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	4	1	子どもの支援に必要な項目を適切に設定している。	・具体的な支援内容が設定されているが、その支援内容をどう実行していくか等々、更に共通理解を深めていく。 ・個別支援計画作成の研修受講等検討。	
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4	1	チームで協力し、行っている。	チームでは行っているものの、更に時間を増やし、より連携を密にしていく。	
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	4	1	職員間で話し合って意見を出し合い、プログラムが固定化しないように工夫している。	更に他事業所等との連携等により活動プログラムが固定化しないように知識を増やし、技術を高めていく。	

	19	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	3	2	毎日のプログラムに集団療育と個別療育が見込まれている。	全職員が、その活動の目的とねらいを意識して支援していく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	4	1	毎朝朝礼を行い、その日の利用者や支援内容の確認、また保護者の連絡帳記載事項等を共有し、チームで連携して支援を行っている。	支援内容、役割分担等更に詳細な打ち合わせを行い、連携を密にする。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4	1	支援の振り返りや気付いた点等の共有については、その都度実施している。	全職員での打ち合わせや支援の振り返り、気付いた点等の共有は出来ていないことから、後日改めて共有できるよう記録化する。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5	0	・毎日、その日の利用児童全員の記録を取っている。 ・日々の記録を職員が複数の手で記載し、子どもの発達状況やその日の様子が分かるようにしている。	記録の記載にとどまらず、支援の検証や改善につなげていく。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	4	1	10月に開所してまもなく6ヶ月で、随時見直しを行っている。	6ヶ月を待たずともクリアしている目標もあることから、見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っていく。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	3	2	多彩な遊びを用意して自ら選択する機会の付与や遊びを通して成功体験で自己肯定感を育む活動をしたり等工夫している。	地域交流の機会の提供を行えていないことから、今後検討していきたい。
	25	こどちが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	4	1	集団プログラムだからと言って無理にやらせるのではなく、選択肢を与える等して工夫している。	今後も、一人一人に合わせた支援を行い、子どもが自己選択出来るような支援の工夫をしていきたい。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	4	1	子どもの状況をよく把握した管理者兼児童指導員が保護者、間期間、学校等との連携会議に出席している。	会議結果を全職員に共有し、今後も支援の検証や改善を行っていく。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4	1	関係機関等と連携会議を行うなど、連携を図っている。	今後も、関係機関と連携を図り、関係機関等と連携して支援を行う体制を更に整えていきたい。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	4	1	管理者が学校等との情報共有や連絡調整を行っており、それを職員に伝達している。	今後も学校等と情報を共有して連携を密にしていきたい。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	0	5		就学前に利用していた施設とは情報共有を行っていなかったことから、今後情報共有と相互理解に努める。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	0	5		今後、そのような機会があれば、それまでの支援内容等情報を提供していきたい。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパー・バイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	3	2	指定相談事業所と連携を図っている。	今後更に連携を図り、現在取り組んでいる支援内容、また今後取り組んでいきたい支援内容等々について、指導・助言をしていただき、日々の支援に活かしていきたい。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	0	5		今後、そのような機会を設けていきたい。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	5	0	管理者が参加している。	今後、更に接触的に参加し、日々の支援につなげていきたい。
	34	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5	0	送迎時や保護者が訪問された際等々、子どもの状況について保護者と伝え合い、また連絡帳アプリを使い、写真付きで施設での状況を伝えるなど、共通理解を持てるよう努めている。	今後、個別懇談や保護者会等を実施、更に保護者の方と話をする機会を増やしていきたい。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	2		上記個別懇談会等を含め、今後家族等の参加出来る研修等を行っていきたい。
保護者への	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4	1	体験・見学時や契約の際等、管理者が丁寧な説明を行っている。	今後も丁寧な説明と子どもたちや保護者に寄り添った支援をしていきたい。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5	0	体験・見学時や契約の際等、じっくり時間をかけてアセスメントを行い、保護者等の意向を聴取している。	今後も子どもたちや保護者に寄り添った支援をしていきたい。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	5	0	面接の上、個別支援計画の読み合わせを行い、同意を得ている。	今後も保護者の方々等が理解しやすい個別支援計画の作成に努めたい。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	4	1	保護者から相談があった際は時間を設け、少しでも保護者の気持ちが軽くなればと必要な助言と支援を行い、保護者と寄り添うことを意識している。	相談しやすい環境作り、保護者との人間関係の構築、こちらから困りごとはないか等、事あるごとに確認していきたい。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	5	0		まだそのような機会は設けていないが、今後保護者同士で交流する保護者会や各種イベント等を実施していき、交流を深めていきたい。

説明等	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5	0		対応の体制を整備の上、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合は、迅速かつ適切に対応していきたい。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5	0	SNS等を活用し、活動の発信を行っている。また連絡帳アプリを使用し、毎日写真付きで保護者に対しかつ小津状況等の発信をしてい	今後、年間・月間行事予定、イベントの開催情報、研修会の案内等々の通信を発行していきたい。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	4	1	利用契約時に保護者に対し、個人情報の取り扱いについて書面を示しながら説明し、署名をいただいている。	今後も個人情報の取り扱いには十分留意し、個人情報の施設外への持ち出し禁止、個人情報は鍵のかかる保管庫に保管する等を徹底していきたい。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	4	1	書面や連絡帳アプリを使用して通知し、周知及び理解しやすいよう配慮している。	今後も、口頭・書面・連絡帳アプリを使用して、より子どもや保護者の方が周知及び理解しやすいよう配慮していきたい。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	0	5		各種イベント等実施し、地域住民と交流する機会を増やしていきたい。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	3	2	各種マニュアルについて、職員間で周知している。	施設出入口等保護者が見やすい場所に各種マニュアルを設置、緊急時の避難場所、また避難場所への経路等々保護者に周知していきたい。また、発生を想定した訓練を実施し、練度を高めていきたい。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	3	2		職員間で話し合いながら必要な訓練を実施し、練度を高めていきたい。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	4	1	利用契約時等書面にて保護者から聞き取りを行い、喘息発作時には水分を取らせる等職員間で周知している。また、発作が起こった際等は保護者に報告している。	利用契約時のみならず、今後も保護者と連携を密にし、子どもの状況を確認していきたい。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	0	5		今現在、医師の指示書を必要とするような児童は在籍していないが、今後そのような児童が利用するとなった場合は、医師の指示書に基づく対応をしていきたい。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	3	2		今後、必要な研修や訓練を実施、振り返り等々を行い、十分な安全管理の中で支援出来るよう努めていきたい。
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	2	3		今後、家族等へ周知していきたい。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	3	2	ヒヤリハットの書式を設けている。	書式の簡素化を検討し、発生の際はすぐに書き出せるようにし、必要に応じた対応策等職員間で話し合っていきたい。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5	0	虐待防止に関する研修を実施し、虐待防止に努めている。	定期的に指針やマニュアルの見直しを検討し、研修を実施していく。また、外部研修にも積極的に参加していきたい。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	1	4		定期的に指針やマニュアルの見直しを検討し、子どもや保護者に事前に十分説明して了解を得た上で、個別支援計画に記載していくよう努める。